廿一日夕刊
磐城新聞
發刊日 大祭日ノ翌日 第一第三日曜日
定價 一ヶ月五十錢
廣告料（一行五十錢 場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
福島縣平町田町拾六 發行所 磐城新聞社 電話五大番

考へたままに□□□
内郷 春日利光

平等即差別とは、極めての妙理を持つた言葉であります。けれども平等が差別だ、差別が平等だとは、矛盾した理窟のやうに速斷され易い。所が一向に矛盾してゐない、理義整然たるものであります。之を平易に説明いたしませうなら、平等といふからには、決して不平や不滿があるべきではなく然らあることが尤もだと皆が皆滿足し切つてゐる狀態でなければなりません所でこゝに百人の人を使用する會社があるとして、學者も無學者も、悧巧者も馬鹿者も働き手も怠け者もふき混せて、平均に一人宛五十圓の月給を支給するとしたら、それで果して不平や不滿がないものでせうか。無學者や馬鹿者や怠け者は或は知らぬが半兵衛で濟ましてゐるかも知れませんが學者や悧巧者や働き手は到底默つてはをりません。大に不平を訴へるに相違ない不滿なのは至當な話です。それは平等でないからです然らば何うしたらば平等なのかといひますと、五十圓の價値のあるものには五十圓三十圓の價値のあるものには三十圓、二十圓は二十圓、十圓は十圓との人の性格と能力に從つてその價値通りに支給すればよいのであります。金額には差別がありますけれども、待遇に於ては平等なのであります。公平で適當でその人に全く相當したこと、よしや金額に差別はあつても價値通りにそれが公明に行はれてをるのでありますから、自己を僞つて不條理な橫車を押すなら知らず、正義に於て絕對平等である譯です。即ち平等即差別であり、差別即平等であります。

なほもてかやうな例をもいへ得ます人は誰でも飯を食ふものだから、飯は必す三杯食ふのだぞと定めたとしませう。老人でも青年でも健康人でも病者でもそんなことはお構ひなしに然るに美人や病人は、そんなに食へないと不服をいひません。大男や腕力家はもう一杯食べたいものだと不足をいひませう。不平不滿があることは誰もおしなべて三杯とした點に不平等があるからであります。即ち肥大な人だから四杯、年若だから三杯、老人だから一杯先づこのやうに、人々に適應した食ひ方をする所に平等があります。茶碗數には差別がありますが、人々には平等な食ひ方であります。矛盾も撞着もないではありませぬか。平等は差別で差別は平等でありませぬか。

明日の吉凶　舊五月二十三日　新六月二十二日

▲一白 の人一方に利あるも他方に損し易し衞生も注意▲二黑 の人貧乏籤を引き當て安き血氣に疾るに大凶▲三碧 の人無理をせず氣來に泰へる時は吉き日となる▲四綠 の人妄動するときは後に悔を殘すことあり注意▲五黃 の人身は雨中にあれど行手は晴るゝ急ぐまいぞ▲六白 の人粗略に流れ損失を招くこと多し旅行尤も凶▲七赤 の人自己を誇らず安靜を借たば吉きかと成べし▲八白 の人根氣續けば成功すれど怠氣を生ずれば敗る▲九紫 の人目前の私慾を捨て正に向つて進むが吉たり

讀談 血を洗ふ (67)
高橋掬太郎創作　布施千八郎挿畫

敗殘の人々

兜は戴いてゐないが、一目でそれと判る本間家重代の緋威しの鎧を着けてゐる武士の姿に淸左エ門は思はず主君と呼んだ。

がその聲は潰されたやうにひびかなかつた。そして全身を縛られたやうな壓迫を感じた。

血染れの武士はずつと進んで淸左エ門の前に坐つた

「御家老！」

と淸左エ門を呼んだ。それは冥府から吹いて來る風のやうに細い聲であつた

「おやッ！」

と淸左エ門は思つた。主君の成昌と思つたのはちがつてゐた。

それは主君成昌と瓜二つだと云はれてゐる花田數馬之助昌行であつた。

「たッ、花田氏か、何時戻られたのぢや？」

淸左エ門に二度びつくりしながら云つたが、その聲も潰されたやうに響かなかつた。けれども數馬之助の耳には通じたらしく、彼は面をあげた。そして、じつと淸左エ門の面を見つめたが、その眼も灰のやうに光りを失つてゐた。亂れ毛が無慘な程に振りかゝつた數馬之助の顏は現世の人とは思はれなく蒼ざめてしかも半面は鮮血に彩られて凄かつた。

淸左エ門はぞつと背筋から冷水三斗を浴されたやうな心地がした。全身の毛が一筋一筋に震ひ立つたやうな心地がした。

「御家老御安堵召され、主君は御無事でござるぞ」

と數馬之助は云つた

「ナニ、主君が御無事―」

と淸左エ門は反問した。その聲に淸左エ門は漸くハツと氣がついた

見ると今まで眼の前にゐた花田數馬之助の姿が煙のやうに消えて何物もなかつた。

「やゝッ―」

と淸左エ門は又も吃驚し考へてみたが夢であつたのか現實であつたのか判らなかつた。

「或はこれか幽靈といふのであらうかだが主君は御無事でございますると云つたのはどういふ譯であらう？

と淸左エ門は考へた。

血塗れになつて花田數馬之助の姿をありありと眼の前に見たのは夢でなく、錯覺でなく、たしかに亡靈にちがひないと思つた。

「數馬之助は討死にしたのにちがひない。そして主君が御無事といふことは……

と考へると、心が忽ち暗になつて不安の波が一杯に立ち起つてくるのであつた

「我が軍が全滅するやうなことになつたのかも知れぬそして主君だけは、逃げになつたので數馬之助の亡靈がわざわざ告げに來てくれたのかも知れぬ」

と淸左エ門は推察した。

南無、南無阿彌陀佛……

淸左エ門は唱名合掌したそして、お家の武運長久主君の御安泰を祈つてゐるうちにみじかい夏の夜はしらじらと明けそめた。

「數馬之助の亡靈が現れたことを奥方や深雪の方に申しあげやうか……」

と淸左エ門は思つた。が夢であつたか現であつたも判らぬ事を語つて余計な心配をさせてはならぬと氣がついて、何か戰地から情報の入るまで待つことにした

それから三日目の正午頃であつた。

石田忠兵エ吉行が殘兵百騎あまりをまとめて歸つて來た。

「扨ては我が軍は敗れたのであるか」

と淸左エ門は驚き乍ら早間重太夫や留守居の將士一同と共に大手先まで出迎へた。

忠兵エは淸左エ門を見るよりその前に進んで馬から降り

「無念ながら、殘兵は此の通りでござる」

と血淚を絞るやうに云つた。

「うむ、敗軍か、して主君は如何なされたのぢや？」

と主君成昌の姿がその中に見えぬので、不安に感じながら問ふた。

新刊紹介

▲俳句誌 影（七月號）私の句作法 五人家）現代俳句評（齋田素州）俳心斷片（舘林溪亭）沂詠（建昌大夢野島辰次）霖雨吟行（瀬川可迷）すべり臺（吉村岳堀）雜詠、批評添削句、少年俳句其の他初學ノ好文字滿載、尙購讀者に無料通信教授をしてゐる（卅號東京市麴町區下六番町俳句普及會行發

廣告

ちのくすり
御需めの方は
平白銀町 吉田新聞店へ
電話四十八

御料理 鰻蒲燒 仕出し
平 館隣り
魚榮
電話四二四番

世界的日魯漁業會社が大量製産の結果はかくの如き安き鑵詰ありや
優良、美味、便利
氷山印鮭鑵詰
特價 金貳拾參錢
平町二丁目
西村屋藥局
電話三番

のんですぐきく
クノー散
神經痛、頭痛、ロイマチス、齒痛、肩のコリ、其他疼痛時服用すれば奏効的確なり
論より證據直ちに試みられよ
定價 二十錢、三十錢、五十錢、一圓
平町各藥店ニテ特約販賣致します

腦―と―生殖器
エキスピン
世界的一大發明藥（睾丸エキス）
◇どうも頭がボンヤリする方
◇老衰を恐怖する方
◇夜良く寢むれぬ方
◇精力減退の方
定價 金五圓・十圓・廿圓
平町田町
一手販賣元 宇佐美藥局
電話五五一番
（申込次第實驗報告集進呈）

三百年の古い歷史と他の模擬の出來ない獨特の芳香と色澤を有つ
ヒゲタ醬油
釀造元 銚子醬油株式會社
平町田町
特約店 廣瀨支店
電話五四番

内科。外科。婦人科。小兒科。花柳病科。
磐城病院
入院隨時
平町田町本通り
（電話一一四番）

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に二千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

齒科口腔一般
診療時間（午前七時ヨリ午後八時マデ）
但シ急患ハ此限リニアラズ
平町南町成田山前
鈴木齒科醫院
齒科醫 鈴木五郎

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
（久）釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番 一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

外科專門
入院隨意（自炊の便あり）
平町南町
上田外科醫院
電話一二九

生殖機能は
健康の中心
精力の源泉
閑却され易き
初期の衰弱

『これは素的！服めば服むほど』

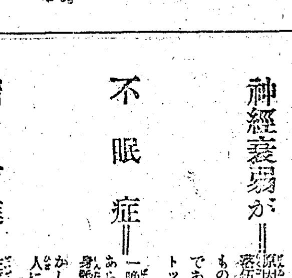
トツカピン

生殖機能が＝減退すれば全身衰弱して、萎んだ樣な何一つ途には無上の幸福をも喪失する、遺精や夢精、早漏の徴候に注意せよ、直ちに召せ、トツカピンを！

神經衰弱が＝原因で罪を犯し、精神に異狀を來し、落伍者となり、甚だしきは自殺するものさへある！何といふ恐しい現象であらう。賢藥に迷はず斯界の權威トツカピンを服んで直ちに復活を！

不眠症＝一晩の不眠がされ程身心を害はすであらうか…二日三日と不眠が續けば身體は綿のやうに疲弊する、何んとかして快い睡眠を求めたいといふ人にトツカピンは最向きです

精力增進＝生存競爭は日一日激烈となつて行く現代に「力」がなくて何が出來よう…百萬圓の金よりも貴きは健康精力である。寄藥の如く潑剌なる活力を求むるものは服め！


戶塚醫學博士推奬

定價 三十錠 三圓 五十五錠 五圓（郵稅共）百廿五錠 拾圓（郵稅共）三百十錠 廿圓（郵稅共）
（用）一日三回一回一錠

發賣元 東京市銀座新肴町八番地 振替口座東京七二二一番 丁子堂藥房 大阪市西區立賣堀北通二ノ九 振替口座大阪百六番

◎全國到る處の藥店にあり

一得一失のある 繭の總荷取引

机上の空論は不可と 養蠶家反對の聲

本郡下農村は目下春繭の出ば、これを運搬箱に入れて廻り最盛期に當面し各市場又他の商店又は市場に運搬は繁忙を極めてゐるが繭をして同様に出荷に對し縣並に郡同業組合では繭市場取引の改善をなすと共に繭の總荷取引を行はしむることになりそれぐ養蠶家に

總荷を持 ち出して販賣するやうにすゝめてゐるが、これが販賣方法は一得一失あり、たとへば賣買がよく相談出來る場合には頗る便宜であるが一朝破綻をなるが如き場合に至非常に不利益となるのである。郡ち養蠶家は朝市場又は商店に運搬してくると、こゝで賣買のために繭を上下左右に攪亂され、不調となれ

攪亂され るから繭の品質は非常に損傷されることになる、斯くては蹲繭者も養蠶家も少からざる損害を受くるのである、しかるに當局では單に机上の空論にのみ走つて實際の養蠶家の狀況を知らず知らず何年も規則立てられ、それが養蠶家の利益保護とか何とか云つて壓迫されるのだから養蠶家も今少し自己の利益擁護を何事も官吏輩にのみ一任する事はよろしく研究すべき價値があると共に生産者たる養蠶家は大反對をしてゐる

賃貸委員選擧で 既に運動開始

多分八月の中旬頃に 競爭猛烈を豫想

稅制改正による平稅務署管內の土地賃貸價格調査委員選擧期日は近く決定次第關部署長より夫々管內各町村に對して

通知する 筈であるが大体八月中旬と成る模様である、而して委員數は町村を一區として各一名宛の四十名であるが既に候補者たる可く豫備的行動を開始した向もある程だから間際に至れば激甚なる競爭を演出するものとの豫想が取行はれてゐる、右について消息通の曰く『同じ稅務署關係委員と言つても所謂調査委員などと違つて任期がタッタの二ケ月であるにも拘らず其任期たるや明治八年、收穫によつて定められたところの地價を小作料を以てするの夫れに改正しやうとするの事務に携はるのであつて土地所有者にとつては其處に幾多の利害關係が生ずるが爲には勢ひ多くの野心家が現れ從つて

猛烈な競 爭の行はれる事は當然であつて或はヒヨツとすると選擧違反などの起きる事もあらう」云々

來年から繼續補助で 小名港豫算計上

愈々實現に這入つた 地元民熱心肝要

小名濱商港修築補助費に內務省が明年度豫算より三十八萬圓を計上し繼續補助をして交附する事に豫算を計上する事に決定した如く將來頗る有望になつて來たが此の機會に際し極力之が通過を圖ることは本縣に取つて極めて

重要なる 所から伊東本縣知事は二十三日からの地方長官會議に列席の爲め二十日上京したが、直に引返し二十一日縣より急遽出張の中限土木課長の案內で小名濱港を視察する段取となつた尚は近く內務省の港灣主任技師鈴木工學博士が來縣して同港を實査する筈である、右に就き半井內務部長は語る『政府の小名濱築港豫算が通ると否とは一つに縣民諸士の覺悟とが奮發とに依る譯だが本縣としては早速同港改築の

財政計畫 を立てる考である、尚は之が財源としては政府が必要なる起債を認めることになつてゐるから大變便宜と思ふ、淺野總一郎氏が多額の寄附を爲すことになつてゐる此の機に際し大に縣民の蹶起を望みたい」と

西村藥舖の強盜未就縛

平署活動繼續

十九日午前二時平町二丁目藥舖鈴木堅助氏方に忍び入つた強盜については平署では刑事八方に飛ばし嚴探中であるが未だ縛に就かないけれども當時の勤務より見て犯人は同家の事情熟知のものらしく此の方面に力を注いでゐる

玉川農事實行 田植を了す

水田十六町歩

玉川村島農事實行組合では郡下各方面に先立つて共同作業に着手してゐる事既報の如く去る十六日から部內十六町歩の水田に共同田植を開始し今廿一日を以つて田植、苗代整理、田植の後始末等一齊を了する筈であるが共同田植の方法は組合加入者十二名が午前一時の起床傳備の法螺の響に飛起き組合員の家族等四十三名が男女混合で午前二時には水田に入り眞に和氣靄々と作業を續けてゐるので共同作業としても縣下に於いては全く見られない程の共同精神を有してゐるものであると

二縣を荒した 金砂小僧

平署に逮捕

平署の青田、川上の二刑事が十九日午後九時頃內郷村大字御厩附近を密行中時闇の中に擧動不審 男を發見推何したるに件の男は矢庭に反對の方向に逃走し同地內田圃に逃込んだのを格鬪の末逮捕本署引致徹宵嚴重な取調を續けたが此奴は稀代の大盜金砂小僧事當時住所不定無職前科二犯、茨城縣久慈郡金砂村大字下河內村矢部宗之介(二七)で去る二月二日水戶刑務所を出獄以來本縣並に茨城の二縣を股にかけ前後十數回に亘つて竊盜を働らいてゐたもので贓品は各地の旅館、料理店等に預けた旨自白したが被害金品は數千圓に達する筈で平署近來の大捕物である

時代劇 紺屋高尾　◎勝見プロダクション映畫……

男の意地の葛藤……それは命を賭しての戀……夫に報ひられた時……そしたものをテーマにした勝見默笑氏一流の鋭ける諷刺喜劇戀愛時代劇——原作勝見默笑——監督見義——撮影石本秀雄——主演勝見庸太郎——配役　紺屋職人彌吉(勝見庸太郎)　染屋主人(都賀清司)　友公(玉木潤一郎)　高尾太夫(瀧路郁子)。勝見の彌吉、瀧路の高尾

復た旱天に惱む 玉川村の百町歩

三十馬力の動力で 地主連善後對策

郡下各方面の田植は今や最盛で何れも順調な經過を辿つてゐるが打續く千天のため水不足の結果小名濱字定西水田約百町歩は遂に田植不能に陷つた、此の前後策に就き地主連並に同町農會では死活に關する重大問題であるので八方奔走した結果同町築港の三十馬力十六時の動力揚水機を借り受け疏水路から給水する事となり辛じて田植を了し得たが此の報に接して郡農會からは大山技師現場に急行實地視察の上今後の對策等に就き同町農會と協議を遂げたが大山技師は『現に揚水に着手したから近け中には全部植付を了せら見込である同地は昨年も同様植付時に水不足を告げた事で用水に對する注意力があれば問題はなく此の意味から元水池なぞの設置緊急な問題であらう」と云々と語つてゐた

共同田植は 成績良好

郡農會で奬勵

石城郡農會では稻作の共同作業を奬勵してゐるが今年共同作業を行つた地方は左の如くである、共同作業は田作の時は成績がよく、灌漑、害虫驅除、除草等を夫々嚴重に行ふ結果は植付けてからも發育がよく、從つて多くの收穫も見ることになる譯だが田植時には共同で行ふと經濟の點に於ても經濟がとれるので農會としては益々此共同作業を奬勵する方針であると
▲玉川村農事實行組合苗代七反武、水田十四町▲泉村字生谷苗代五反、水田十町▲勿來町字田口苗代五反、水田十町▲同町字大高苗代五反、水田十町▲大瀧村苗代二反、水田五反▲平町苗代五反、水田十町

三十年後の平町

小名濱港と其近郊

平町　北總生投

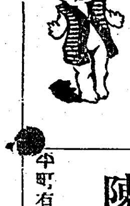
昭和三十一年の平近郊と小名濱港、一寸聞いた丈では餘りに現實とかけ離れた様な感がする、併し我々が夢の如く過した十年二十年過去を振返れば決して長いとは云へぬ、まして人類の生存から見ればそれは極めて短い時間であり近い將の事であるから現實の問題と見くも決して過言ではないと思ふ。三十年後の平近郊が如何に變遷するか？それは計り知れない謎であるが我々は今想像の限りを盡して、三十年後の平近郊を外面的ではあるが簡單に紀行文体で豫言しやう。

(一)

昭和三十一年の晩春、私は城山に登つて曉雲次第に晴れ行く平市を眺めてゐた。眼前各所に林立する白亞九層樓の大ビルデング、遙か谷川瀨の丘上は所謂山の手と稱し別莊と公園が綠陰の間に隱見してゐる、昔の新川端にはクリーム色の市會議事堂がそびえ、議事堂前の廣場を中心として道路は放射路と環狀線の交錯により交通は遺憾なく完備せられて坦々たる道路の兩側には綠の並木が植ゑられ建物と美しい色 配合を見せてゐる、今より三十年前即ち昭和二年の頃僅か二萬數千の人口と新川以南は水田と林野に占められてゐた平町も今や隣接町村六ケ村を併呑し、水平には大して發展しないけれ共立體的に上へ＼／と發展し昔の水田も大市街地と化して人口三十萬を數へるに至つた、而して眼下を異様なうなりを生じて走る十六輛編成の電化列車これぞ札幌發長崎行の特別急行列車である、青森函館間は海底トンネルによ津輕海峽 海底に於て北海道と本洲が握手し、朝札幌を出發した列車は一度の乘換も要せず翌日の夕方長崎に到着する恐るべき快速力を有してゐる、朝六時頃より一時間每に平市の上空を通過する飛行機は日本航空會社の門司、神戶、横濱、小名濱の四大貿易港を聯絡する定期郵便飛行機である、夜は全く明け放れて六時を報せる城山の鐘は昔の面影を其の儘に幾轉極りなき市街地を見下ろしてゐる。

(二)

平市が何故かく異常な發展を遂げたか、その主要な原因は三つより成立つてゐる第一には小名濱の大築港が完成した事、第二は小名濱を中心として太平洋沿岸一体の海底にわたり大炭脈が發見せられた事、第三は赤井嶽山麓に年產壹千二百萬樽 超高級セメント會社の大工場が出來た事の三つに起因してゐる、小名濱港は大正十三、四年頃より工事に着手し二十ケ年の歲月と千萬圓の巨費とより擴張＼／を加へ、今日では横濱と共に大平洋岸の重要港灣として米國に對する北日本の大玄關口となつたのであつた、今、日本郵船會社小名濱支店前よりホテルや外國商館の立並んだ海岸通を眺め更に目を轉じて埠頭を眺めれば二萬噸級 汽船七隻が同時に繫船し得る大棧橋には四隻の汽船が黑煙を吐いて出航準備をとゝのへてゐる、檣頭高く飜る社旗にはカナダ太平洋汽船、フランス郵船、日本郵船等のマークがあり＼／と讀める、郵便旗と共に潮風になびいてゐる、日本に輸入する大部分の木材はジヤトルより積出され一路小名濱港に直航し直に陸揚されて平市を經由し全國へ發送せられてゐるのである。(つゞく)



大森色魔辯士 陳述を飜す

助川町で暴行

平町有聲座元辯士双葉郡大堀村大堀前當時茨城縣日立町榮町活動常設館榮座映畫說明大森茂(二九)が昨年十二月中旬の某日午後十二時頃同町芝內森鐵彌の姪千鶴子(二三)を榮座の化粧部屋に一泊せしめ暴行を加へた上裂傷を負はせた事件は豫て水戶地方裁判所の豫審に附されて居たが二十日同所で「公判に附するに足るべき犯罪の嫌疑なし」との理由で免訴の決定を與へられた同事件は發生以來既に半ケ年を經過し被疑者大森は最初は助川署に於ける供述を檢事廷豫審廷共に認めて居たが、豫審の中途より、警察署の供述を飜したものである

知事一行來郡

けふ小名濱町に一泊 明日更に平町へ

小名濱港の築港問題は別項の如く愈々內務省の意向確定したので二十三日から開かれる地方官會議に出席のため二十日午前七時三十分福島發の列車で上京した、伊藤知事は二十一日午前內務省側の意向を更に聽取の上主務省技師同伴の下に同日午前十一時上野發列車で泉驛着、同町から自動車を以て同港の實地視察を行ふことゝなつた、而して同夜は小名濱町に一泊、二十二日午前九時發の列車で平町に來る豫定であるが小野縣議は本日知事を水戶驛まで出迎ねたと

磐中の辯論大會

けふ同校講堂に於て 交々熱辯を揮ふ

縣立磐城中學校辯論大會は二十一日午前十一時より磐中講堂に於て開催したが各辯士左の演題により交々紅淚な氣を吐き滿堂を醉はした演題は左の如し

(開會の辭)本部委員渡邊豊(挨拶)本部長山﨑年生(五國民の進路)一年渡邊清也(人の踏むべき道)同矢島力(毒ガス)同岡田健治(相手を動かす手紙の書き方)鈴木敏行(國家の興亡)大河內重雄(我等の覺悟)鈴木憲治(少年の意氣)狩谷敏行(海外發展)高野吉雄(貯金)小島惠 郎(外物を以て心となす)二年阿部傳(模倣は自殺なり)同小坂直一(奮鬪と成行)同楠正光(日新の世に立ちて)高岡常(意氣の力)首頭進助(生の雄叫び)關原幸(平安文學に就て)佐藤剛(未家)坂田千中(病床幻想)高田彌內(牛靈よめき)渡部豊(所感)校長先生(閉會の辭)本部委員中野喜一 以上

安齋巡查出發

平警察署より須賀川に轉任した安齋巡査は今二十一日午前十一時四十五分にて赴任し

かみゆひ

今日の束髪結婦に取つて自由な流行はまづ珍らしいと思つてひます、全くダアウヰンの進化論式に束髪を分類したら、或は意外に種類が尠、十種もしくは五種に大別されるかも知れませんけれど、街上に見かける婦人の髪形は、實に千態萬様惡く云へば百鬼夜行と行つた有様です、同じ耳かくししても、ぼの前にこび出してゐるもの、下の方に重苦しく垂れ下つてゐるもの頭、頂上のとがつたものなど本當に婦人一人々々に違つて、日本髪形に多少の相違はあつても、殆と規格の統一したのとは雲泥の違ひあり、時に植田の音丸は今の夏から洋裝をする計劃を立て本日藤出女學校に仕立方を依賴して返つた

高久病院　平町田町　電話五一三番

鐵筋コンクリート　鐵骨組立　和洋建築　文化式建築　設計監督　土木、建築、請負業　合資會社 丸三森川組　社長 大森鎭平　東京日本橋南茅場町二〇　電話茅場町66四五二二番

內科、小兒科　花柳病科　入院應需　藤沼醫院　平町紺屋町　電話平局五〇七番

株式賣買　諸株式の賣買に應じます　謹告　株式現物賣買　平町田町六八　駒場四郎商店　電話四六五番　電略(カ)(ネ)又ハ(コ)　(電話高價に買入れたし)　取引は迅速を第一とします　取扱は親切を旨とします　土地賣買金融の仲介を致します

開始 柳川　御一人前 四拾錢　出前迅速

本年も相變らす御贔負程願ひます　牛肉御料理 石川亭　平町田町(電話四三番)

懇切迅速勉强は 弊店のモットーであります　磐城銀行御指定　ケーテー洋服店　平町材木町 高野幸一

釀造元 清世界 吉　銘酒　各炭鑛御用達　石城小名濱町 清水屋 小野晉平　電話六番